Culture Letter

カルチャーレター

時代を超えて、人間の普遍性を表現する狂言を見てほしい

狂言師 茂山正邦（しげやままさくに）さん

昭和47年7月7日、13世茂山千五郎の長男として生まれる。父や人間国宝の祖父4世茂山千作、曾祖父3世茂山千作らに師事、昭和51年『以呂波』のシテ（主役）で初めて舞台に立つ。平成10年大阪市から、大阪文化の振興に貢献しかつ将来の大阪文化を担うべき人材として、「咲くやこの花賞」を受賞。平成12年から心・技・体、教育的古典狂言推進準備研修錬磨の会「TOPPA!」を主宰し、好評を得る。

Q 和歌山の印象はいかがですか。

A 和歌の浦や熊野などに、狂言の公演で訪れたことがあります。プライベートでの周遊はまだ機会がないのですが、魚がおいしいのが印象的ですね。

Q 狂言の公演はどのようなところで行われますか。

A 狂言は少人数での舞台が多く、大道具も必要としません。運ぶのは衣裳と小道具だけと、小回りがきくことから、国内外のさまざまなところから公演を依頼されます。全国各地の学校にも出向き、体育館の舞台での公演も少なくありません。

平成17年11月14日「狂言鑑賞会」和歌山県民文化会館にて

Q 「狂言を観るのは初めて」という方に、狂言の世界を楽しむためのアドバイスをお願いします。

A 伝統芸能であり、また昔の古い言葉を使っているため、初めて狂言を観る方は身構えてしまうかと思います。しかし内容は喜劇でストーリーも分かりやすいものが多いので、堅苦しく考えず、まずは観てほしいですね。

2年に1回のペースで、各国の演劇団体や国際交流機関、現地の日本人学校などに招かれて、海外公演を行っています。狂言は役者の動きが大きく、単純なストーリーなので、外国の方にも受け入れられやすいようです。観客席のリアクションも激しいですよ。日本人の方が“伝統芸能”に対して「難しい」という先入観にとらわれて、身構えてしまうのかもしれませんね。

Q 数々の舞台を踏まれていますが、中でも印象的な演目はありますか。

A 『木六駄（きろくだ）』『空腕（そらうで）』など、舞台のほとんどを一人で演じる演目が印象的ですね。

『木六駄』で、主人公の太郎冠者が吹雪の中12頭の牛を連れて歩く場面は、役者のセリフ回しと動きだけで状況を表現します。また『空腕』では臆病者の太郎冠者が、主人の使いで淀に行く道中でのおびえる演技、また太刀をなくしてしまったことを自慢話とからめながら話すシーンは、高い表現力を必要とします。

Q 最後に狂言の魅力をお聞かせください。

A 狂言の演目は平均約20分。この短い時間の中で、面白おかしく世間を風刺したり、人間性を語る狂言は、時代を超え、人間の普遍的な本質を表しているものが多いです。新作狂言よりも、むしろ古典ものの方がその傾向が強いですね。

狂言とは意外に親しみやすいものですので、ぜひ一度、観にきてください。

和歌山県文化表彰受賞者

和歌山県文化表彰とは、和歌山県の文化向上・発展に顕著な功績のある人たちに贈られる賞です。

平成17年度 文化賞

世界有数の名ホールのひとつ、アムステルダム・コンセルトヘボウにて。「オーケストラ・フェスティバル」でモーツァルトとベートーヴェンのピアノ協奏曲を弾く（写真・木之下晃）

ピアニスト 杉谷昭子（すぎたにしょうこ）さん

和歌山市生まれ。東京藝術大学卒業後、ケルン音楽大学・大学院に留学。演奏家として国家試験で最高位を獲得し、世界の桧舞台で各国の名オーケストラと共演した。数多くのCDを制作し、現在はベートーヴェン・ピアノソナタ協奏曲全集に取り組んでいる。東京およびドイツに在住。

ホテルフォーシーズン東京にて。クララ・シューマンが弾いていたグロトリアンスタインヴェーグでリサイタル

「素晴らしい優れたものに近づきたい、自分もなりたいという気持ちが幼い頃から人一倍強かったのですね」と杉谷さん。3歳からピアノを始め、6歳の時の発表会で受けた拍手の体験がピアニストを目指した原点だとか。東京藝大卒業後、夢を実現するため、まだ留学が難しかった時代にドイツに行き、世界一流の指導者たちの下で研鑽（けんさん）を重ねました。ピアノ以外にも作曲法や指揮法、和声法、チェンバロなども極め、難関の国家試験に最優秀でパス。世界各国の有名オーケストラとの共演が始まりました。当初は苦労した言葉の壁も、いつの間にかドイツ語・英語は不自由なく話せるようになっていました。

ブラームス・ピアノ独奏曲全集、ベルリン交響楽団と共演のベートーヴェン・ピアノ協奏曲全集のCDリリースは、女流ピアニストとしては世界初の快挙とのこと。その演奏会の開催も高い評価を受け、テレビ番組『徹子の部屋』に出演した際には、ブラームスの「愛」、ベートーヴェンの「哲学」を込めたメッセージを伝えるために全集に取り組んだ話などが紹介されました。平成17年12月、海南市で歴史あるドイツのゲヴァントハウス弦楽四重奏団と共演。地元作曲家による「紀伊の国交響組曲」の演奏などで素晴しいコンサートになり、地域の方からは「一流の演奏が聴けて感動した」と喜ばれたそうです。

演奏家と指導者の両立は難しいとされていますが、奏法はもとより音楽の素晴らしさや奥深さをより多く伝えたいと後進の育成にも尽力、現在日本各地で400人にも及ぶ指導をしています。世界中を駆け回る忙しい中、「両親からもらった愛を友達や周りに与え、いじめなどをしないようにして欲しい」という願いから年に2回（春と秋）和歌山県内の学校でコンサートを行い、子どもたちに音楽を通して『愛の深さ』を訴えています。

また平成18年3月11日には和歌山県民文化会館大ホールにて、文化功労賞の森川隆之さんと受賞者記念演奏会を開催する予定です。

平成17年度

和歌山県名匠表彰受賞者紹介

花火製造の伝統を守りながらその美しさを多くの人に広めたい

花火師 藪田善助（やぶたぜんすけ）さん

昭和17年、有田川町（旧吉備町）生まれ。父・善一氏が経営する藪田煙火工場で修行を積む。現在は有限会社紀州煙火の代表として、花火の製造から打ち上げまですべての行程を行う。

夜空を彩る花火。夏の風物詩として知られていますが、今では年越しのカウントダウン・イベントにも打ち上げられ、多くの人を魅了しています。藪田さんは花火の製作一筋45年。経営する工場でスタッフ約10名とともに花火の製造のほか、花火会場に足を運び、打ち上げまで携わります。県内の花火大会の約7割近くを担当。最近では、打ち上げ花火と音楽を組み合わせ、コンピュータ制御で打ち上げる新しい手法も積極的に取り入れています。「賞をいただき、花火製造の伝統はぜひとも守っていきたいと思っています。今後もいい花火を作っていきたいですね」と藪田さんは語ってくれました。

和歌山県民文化会館開館35周年記念

第15回ショパン国際ピアノコンクール

～入賞者によるコンサート～withワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

発売中

関西から文化力

■日時/2006年1月19日(木) 午後7時(開場6時半)
■場所/県民文化会館（大ホール）
■入場料金/SS席1万1000円・S席9000円
A席7000円・B席5000円・C席2500円
●チケット発売中

※SS席は1階中央部の限定席になります
※学生・団体割引あり
※未就学児のご入場はお断りいたします

国際ピアノコンクールの中で最も有名であり、日本でもなじみ深い「ショパン国際ピアノコンクール」の第15回（2005年10月開催）の入賞者と、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とのコンチェルト。東京・横浜・名古屋など全国8都市（8公演）で開催されるコンサートツアーにおいて、和歌山公演が初演となります。

第15回ショパン国際ピアノコンクール本選より

コンサートプログラム

ショパン： ピアノ協奏曲第1番ホ短調op.11
(Pf.山本貴志)

ショパン： マズルカ第33番ロ長調op.56-1
マズルカ第34番ハ長調op.56-2
マズルカ第35番ハ長調op.56-3
ポロネーズ第6番(英雄)変イ長調op.53
(Pf. ラファウ・ブレハッチ)

ショパン：ピアノ協奏曲第1番ホ短調op.11
(Pf.関本昌平)

※演奏曲目・曲順は変更になる場合があります

【ショパン国際ピアノコンクールについて】

国際ピアノコンクールの中で最も有名な「ショパン国際ピアノコンクール」。5年に一度、ポーランドのワルシャワで開かれます。このコンクールからはこれまでアシュケナージ、ポリーニ、アルゲリッチといった世界的なピアニストが生まれており、優勝者は一夜にして世界中の注目を浴びることになるのです。

日本でも関心度は非常に高く、今までの上位入賞者は例外なく世界的に活躍しています。田中希代子、中村紘子、内田光子、小山実稚恵、横山幸雄、高橋多佳子、宮谷理香、佐藤美香など、精力的に活動しているトップアーティストが名を連ねています。

【第15回ショパン国際ピアノコンクール入賞者について】

今回、見事1位に輝いたのが、地元ポーランドのラファウ・ブレハッチ。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞も併せて受賞。また、ファイナルに残った4人の日本人の中から、関本昌平、山本貴志の両名が4位入賞を果たしました。入賞者は以下の通りです。

第1位…ラファウ・ブレハッチ（ポーランド）
第2位…該当者なし
第3位…イム・ドンヘ、イム・ドンミン兄弟（韓国）
第4位…関本昌平（大阪）、山本貴志（長野）
第5位…該当者なし
第6位…カ・リン・コリーン・リー（香港）

出演アーティスト

ラファウ・ブレハッチ（第1位）

1985年6月30日生まれ。ポーランド、ナクウォ出身。ビドゴシチ音楽アカデミーにて、 ボボヴァ=ズィドロン、J.ポランスキーに師事。1996年～1999年に行われた国際ピアノコンクールで数々の賞を受賞。2002年、A. ルビンシュタイン国際青少年ピアノコンクール第2位受賞。2003年、第5回浜松国際ピアノコンクール第2位。2004年、モロッコ国際ピアノコンクール第1位。ポーランド、ドイツ、日本で開催されたコンサートに多数の出演経験を持つ。

そして今回の第15回ショパン国際ピアノコンクールにおいて第1位を獲得。地元ポーランドの期待に見事応えることができた。今一番期待されるピアニストである。

関本昌平（第4位）

5歳よりピアノを始める。ピティナ・ピアノコンペティションにおいて数々の賞を受賞。2001年3月、初リサイタルを開く。2003年8月第27回ピティナ・ピアノコンペティション特級満場一致でグランプリ受賞。併せて文部科学大臣賞、日本フィル賞、王子賞、ミキモト賞、三井ホーム賞、讀賣新聞社賞、更に審査員特別賞、聴衆賞を受賞。

2004年3月桐朋女子高等学校音楽科(共学)卒業。ロームミュージックファンデーション奨学生。エコール・ノルマル音楽院（大学課程）卒業。

2005年1月、第2回ショパン国際ピアノコンクール派遣コンクール金賞受賞。同年10月ワルシャワで開催された、第15回ショパン国際ピアノコンクールにて第4位入賞。2006年2月にショパン作品集をおさめたデビューアルバムをリリース予定。

山本貴志（第4位）

1983年長野県生まれ。5歳でピアノを始める。中学校在学中に、第12回長野県ピアノコンクールでグランプリ受賞。2001年、桐朋女子高等学校音楽科（共学）在学中に第70回日本音楽コンクールで第3位入賞。2003年より、ワルシャワ・ショパン音楽アカデミーに在学中。ピオトル・パレチニ教授に師事。

2004年5月、第56回プラハの春国際音楽コンクール第3位入賞及び最年少ファイナリストに贈られる「ヴァレンティーナ・カメニコヴァー特別賞」を受賞。同年11月、ポーランド・ビドゴシチでの第6回パデレフスキ国際ピアノコンクール5位入賞で芸術家としての更なる成功をおさめた。

2005年10月、ワルシャワで行われた第15回ショパン国際ピアノコンクールでの第4位入賞は、彼の最も重要な功績である。世界的に有名なショパンコンクールでの入賞は、彼を国際的日本人ピアニストの1人であることを証明した。

ファイナリストによる表彰式

「第34回和歌山県新人演奏会」オーディション実施

和歌山県文化振興財団では、平成１８年７月８日に開催する「第３４回和歌山県新人演奏会」の出演者を募集しています。この催しは、音楽を学んでいる優秀な若人を広く県民のみなさんに紹介するとともに、和歌山県の音楽文化の振興と向上を図るための演奏会です。

第３４回の平成１８年度からは、幅広くより多くの方々にご参加いただけるよう、下記のとおり募集資格を大幅に変更しました。みなさまのご応募をお待ちしています。

【応募資格】
平成18年4月1日現在、年齢が20歳以上35歳以下の方で、かつ下記の何れかに該当される方。
本県の出身者、在住者、勤務者、在学生、卒業生
※一度演奏会に出演された方は再応募できません

【オーディション開催日時】
平成18年4月29日（土・祝）午後1時開始（予定）

【開催場所】和歌山県民文化会館大ホール

【参加料】無料（公開オーディション）

【演奏部門】
クラシック部門（声楽・器楽・作曲・邦楽）
※各部門とも生演奏に限ります。作曲の場合は楽譜も提出してください（返却しません）
※主催者で用意する楽器はピアノのみです

【演奏時間】
5分以内（曲のカットは任意）
※演奏時間の長短は審査の対象となりません

【曲目】自由 ※演奏会で演奏する曲を含むこと

【結果発表】
オーディション審査後、当日発表。後日、郵送でもお知らせします。また、希望者には結果発表後、選考委員からの講評があります。

【申し込み締め切り】
平成18年4月1日（土）までに所定の様式に必要事項を記入の上、申し込んでください。

前回の演奏会より

詳しくは、和歌山県文化振興財団　和歌山県新人演奏会係まで　TEL073-436-1331

和歌山名品劇場

Wakayama Traditional Craft Theatre

御坊人形

御坊市北塩屋

和歌山の風土から生まれ、現在まで受け継がれてきた伝統工芸品を紹介します。

人形の種類は、学問の神様・天神さん、俵持ち、鯛恵比寿、三番叟、虎加藤などさまざま。昔から変わらない可愛い顔や形が特徴です

明治時代初期、日高地方には鉄道がなく、子どもの節句に飾る人形は、家具屋さんが船を利用し、大阪まで仕入れに行っていたそうです。仕入先近くの旅館の女将さんが「大阪まで仕入れに来るのは大変だから地元で作ればいいのに。私が京都の人形師さんを紹介してあげましょう」と田中庄助氏に人形作りを勧めてくれたのが御坊人形の起源。当時の節句人形は練りものが主流で、庄助氏の手による『でこやの御坊人形』が日高地方の各家庭の雛壇を飾りました。以来130年間にわたり、田中家が練りもの人形の伝統製法を守り続け、今では四代目に当たる田中丈助さんがコツコツと1人で御坊人形を作り続けています。

雨の少ない冬季に「おがくず」と「メリケン粉の糊」を練り合せ、粘土状にして型へ押し込み、形を作成。約1カ月かけて乾燥させ、胡粉（ごふん）とニカワを混ぜたものを何回も塗り重ねて白い素地を作ります。天然素材なので湿度が高いとカビの心配があるとか。昔の色づけは岩絵の具とニカワを混ぜたものだったそうですが、年数が経つと黒く変色したので、最近はポスターカラーを使い、鮮やかな色が保てるようになりました。

今も節句の祝い品や伝統工芸土産品として珍重され、また全国各地の伝統を大切にする人や人形コレクター、東京・大阪などの郷土玩具専門店などから注文が入ります。ただし、時間と手間をかけた手作りなので量産は難しく、入手が困難な一品になりつつあります。田中さんは、伝統を受け継いでくれる後継者が現れることを望んでいます。

【問い合わせ】
御坊市塩屋町北塩屋1658
0738-23-0738（田中丈助）

世界遺産を辿る

勇壮な火祭り お燈まつり

【開催場所】神倉神社および新宮市内各地　【日時】2月6日（月）午後5時～9時
所 新宮市神倉　問 新宮市商工観光課　0735-23-3333

約1400年の伝統があり、県の無形民俗文化財に指定

「お燈まつりは男のまつり 山は火の滝、下り竜」と新宮節にも唄われているとおり、その壮観さはあまりにも有名。神倉神社の例祭で、古代以来の熊野山伏の伝統を持ちます。

毎年2月6日の夕刻、祈願人である約2000人に及ぶ白装束の「上り子」が、神倉山中腹に鎮座する社に集結。夕闇が深まるとともに、燃えさかる松明（たいまつ）をかざし、「ワァー」と気勢を上げながら一番乗りを目指して538段の急な石段を一気に駆け下ります。その様子は、まるで炎の滝が流れるような勢いで、漆黒の夜空を照らし、観光客を魅了。熊野地方に春の訪れを告げます。

We Love WAKAYAMA!
大好き和歌山

「競技かるた」を楽しみましょう!
和歌山県かるた協会

「競技かるた」とは一対一で対戦し、公認読手の詠む「小倉百人一首」100枚の絵札の上句を聴き分け、下句の文字札50枚を相手よりいかに早く取るかを競い合うもの。和歌山県かるた協会は昭和30年から全日本かるた協会に所属し、毎年、全国かるた競技和歌山大会を開催。全国からの参加者を大勢集め、長年にわたり「競技かるた」普及に努めてきました。現在、会員は30人。幼稚園児から大人までと年齢も幅広く、腕前はA～E級のランクに分かれ、毎週木曜日の夜、和歌山市児童女性会館で練習を積み重ねています。

明日の名人・クイーンを目指して練習に励む

「競技かるたの魅力は、暗記力とスピード感を競い合えること。かるたに夢中になっていると集中力や聴力、記憶力もアップし、ストレス解消や老化防止に役立ちます」と会長の室川公宏さん。滋賀県・近江神社の『全国かるた名人位・クイーン位決定戦』で準クイーンに2回も輝いた会員の中筋規江さんは「小学校2年でかるたを覚えました。公式試合には着物に袴の正装で臨むので、気持ちも引き締まり、集中力も高まります。スポーツのような瞬発力を発揮できるのが楽しいですね」と語ります。短歌の勉強にもなる「競技かるた」にトライしてみるのも、新年の楽しみになるでしょう。

全国かるた名人位・クイーン位決定戦の模様

活動の様子はHPで。
http://www13.plala.or.jp/murokawa/index.html

華麗なダンス、そして歌に 子どもたちの歓喜

(財)和歌山県文化振興財団

去る12月4日(日)に、和歌山県民文化会館大ホールで行った当財団(理事長：木村良樹和歌山県知事)主催の「ブロードウェイミュージカル」公演を、木村理事長の提案により、児童養護施設などの子供たち(8施設65名)にも鑑賞していただきました。

子供たちを勇気づけ、明るく楽しいひとときを過ごしてもらうように招待したもの。「生まれて初めてミュージカルを見て、良い思い出になりました」「わくわくしながら楽しい時間を過ごすことができました」「ミュージカルを見て、勉強に取り組む力が沸いてきました」など、子供たちから心のこもった温かい感謝の返事が寄せられました。

今後もこのような芸術鑑賞の機会を増やしていきたいと考えています。

和歌山の昔話

チュイラはんの話

現在の橋本市隅田町霜草の山奥に、チュイラはんという仕事熱心な木こりが住んでいました。早寝早起きのチュイラはんでしたが、毎晩毎晩トントンと戸を叩く音で眠れない日々が続きます。きっとタヌキの仕業だと思ったチュイラはんは、夕食もそこそこに、戸口の内側で今か今かと待ちかまえていました。

どれほど長く待ったでしょうか。トントン、トントン。「さ、来たぞ」とチュイラはんは胸を躍らせ、力一杯サッと戸を引き開けました。ガサッと音がしたかと思うと、得体の知れない何かが暗闇の家の中に転がり込みました。急いで明かりを灯して家の中を隈なく探し回りましたが、どこにも見当たりません。ふとチュイラはんが仏壇に目をやると、位牌が一つ多いではありませんか。チュイラはんはピンときて、仏さんにお茶を供えてチ～ンチ～ンと鐘を鳴らすと案の定、手が伸びて来ました。チュイラはんはその手を取って思いっきり引くと、大きな大きなタヌキが出てきたそうです。

参考文献／かたりつぐわかやまの民話(和歌山県老人クラブ連合会)
絵／西 智美　協力／わかやま絵本の会

カルチャー・インフォメーション

和歌山県立近代美術館　〒073(436)8690

美術百科「世界一周」の巻(前期)　■1月15日(日)～2月19日(日)

村井正誠《アラブの窓》1929年

同館のコレクションをさまざまな視点から紹介するシリーズの第4弾。国内外から和歌山に集まった作品をたどって世界一周をめざす〝展示室で旅する展覧会〟です。和歌山を出発点に東京、京都、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど、芸術家たちを引きつけ、触発し、磁場となった世界中の場所を作品とともに巡ります。後期は2月28日(火)から始まります。

㊡午前9時半～午後5時（入館は午後4時半まで）　㊡月曜
㊟一般310円・大学生210円 ※高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方・県内在学中の外国人留学生・就学生は無料

和歌山県立紀伊風土記の丘　〒073(471)6123

古墳ガイドツアー「岩橋千塚を歩こう 周辺の古墳群の探索」

■2月10日(金)午後1時半～4時

前回の古墳ツアーの様子

古墳散策を通して、特別史跡「岩橋千塚古墳群」の知られざる魅力を紹介します。参加費は無料ですが、傷害保険料103円が必要。予約締め切り日は1月26日(木)。

自然教室「満開の梅林」

■2月26日(日)午後1時半～3時半

園内の梅林

園内の梅林が満開を迎えるのにあわせ、梅の香りを楽しみながら、学芸課植物担当スタッフが万葉植物について解説します。傷害保険料103円が必要。予約締め切り日は2月9日(木)。

㊡午前9時半～午後4時半
㊡月曜(祝日の場合は次の平日)
㊟入場無料(現在資料館は臨時休館中。公園内は通常通り開園)

和歌山県立博物館　〒073(436)8670

企画展「浄教寺の文化財」

■1月21日(土)～3月5日(日)

浄教寺(有田川町)の当麻曼荼羅(鎌倉末～南北朝)の修理完成を記念し、重要文化財の大日如来坐像や仏涅槃図（ともに鎌倉時代）をはじめとする所蔵文化財を一堂に展示。

㊡午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで)　㊡月曜(祝日の場合は翌日)
㊟一般260円・大学生150円 ※高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方・県内在学中の外国人留学生・就学生は無料

和歌山県立自然博物館　〒073(483)1777

自然博物館体験教室　魚の骨格標本を作ろう

■2月12日(日)午前9時半～午後4時半

チカメキントキの骨格標本

魚の骨格標本作りに挑戦し、魚の体を骨格からじっくり観察してみませんか。学芸課職員の指導の下、標本作りの楽しさ、難しさを体感できます。募集対象は中学生以上一般で定員は20人、参加料は入館料と300円です。タオル、筆記用具、昼食持参。予約締め切り日は1月28日(土)です。

㊡午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで)　㊡月曜(祝日の場合は次の平日)
㊟一般460円 ※高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方は無料

万葉館　〒073(446)5553

燦短歌研究会作品展～高野・熊野・和歌の浦を詠う～

■1月25日(水)～3月26日(日)

古代から多くの都人が訪れ、和歌を詠んだ地、高野、熊野、そして和歌の浦。和歌山市に拠点を置く「燦短歌研究会」が、これらの地に赴いて詠んだ作品を展示します。出展形式は掛け軸、色紙、短冊などで、写真家藤井定明氏による当地の写真も飾られます。

㊡午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)　㊡月曜(祝日の場合は翌日)
㊟一般260円・高校生／大学生150円・小／中学生100円
※高齢者(65歳以上)・障害者の方は無料

イベントスケジュール

※チケット好評発売中
※未就学児のご入場はお断りいたします

1/18 WED 水　軽やかな指先が奏でる世界の名曲

エリック・ベルショ ピアノエレガンス　関西から文化力

■開演／午後6時半(開場6時)　■場所／県民文化会館(小ホール)　■入場料金／全席指定3000円

フランスが誇る名ピアニスト、エリック・ベルショ。映画音楽からポピュラー、クラシックまで、ジャンルを問わない選曲で、幅広い層が楽しめるピアノコンサートです。

＜予定曲目＞
○モーツァルト3大オペラ「魔笛」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」メドレー○「シェルブールの雨傘」○ビートルズメドレー　○枯葉　など

1/31 TUE 火　今度の劇団四季は最高にハッピーなミュージカル！

クレイジー★フォー★ユー　関西から文化力

■開演／午後6時半(開場6時)■場所／県民文化会館(大ホール)■入場料金／S席8400円(残席わずか)・A席7500円・B席5000円(残席わずか)・C席3000円

前回公演より
撮影／山之上雅信

誰もが耳にしたことのあるガーシュウィンの名曲の数々、躍動感あふれるタップダンスと底抜けの明るさ、そして恋のゆくえにハラハラするストーリー。『クレイジー・フォー・ユー』は、大事な人と一緒に見たくなるミュージカルコメディです。

2/25 SAT 土　日本が生んだ伝説的鬼才

ソンコ・マージュ ギターリサイタル　関西から文化力

■開演／午後2時（開場1時半）■場所／県民文化会館(小ホール)■入場料金／全席指定3000円

ラテンアメリカの民俗音楽「フォルクローレ」奏者で、セゴビアとユパンキの精神を語り継ぐミュージシャン。情緒的な調べに、アンデスとパンパの風景が目に浮かびます。

＜予定曲目＞
○「コンドルは飛んで行く」○「トゥクマンの月」
○「大地は待っている」○「牛車にゆられて」
○「眠れぬ夜」　など

WACA-P 文化情報誌 ワカピー Wakayama Culture and Arts POWER

【発行日】平成18年1月
【発行】和歌山県
【編集・問い合わせ】和歌山県文化振興財団(ワカフ)　〒640-8269 和歌山市小松原通1-1(和歌山県民文化会館内)
☎073(436)1331　FAX.073(436)1335
【ホームページアドレス】http://www.wacaf.or.jp